

山行報告

■夏山⑥コース(唐沢鉱泉～天狗岳)

●日 程：8月20日(水)～22日(金)

●参加者：A班 L 須増 SL 平井 瀧原 田中(重)
B班 L 藤本 喜田 田中(由)山本(清)

●行動記録：

(20日)：茅野駅 13:05 発～唐沢鉱泉(13:45 着)

(21日)：唐沢鉱泉 6:10 発～尾根合流(8:10 着)8:20 発～黒百合ヒュッテ(10:00 着)
10:40 発～縦走路分岐(12:40 着)12:47 発～東天狗(13:10 着)13:30 発
縦走路分岐(13:50 着)13:55 発～中山峠(15:00 着)～黒百合ヒュッテ(15:20 着)

(22日)：黒百合ヒュッテ 6:35 発～中山峠(7:05 着)～にゅう分岐(7:10 着)～
にゅう(8:28 着)8:38 発～分岐1(8:55 着)～分岐2(9:40 着)～白駒荘(10:40 着)
11:25 発～白駒の池入り口(11:45 着)～麦草ヒュッテ(12:05 着)麦草ヒュッ
テのバス停(12:40 着)

◆どこまで続くの？岩の登山道

山本(清)

八ヶ岳へは山遊会に入会して間もない頃に参加したスノーシュー以来で、終わりのストレッチを担当された大先輩Sさん「美味しい空気を胸いっぱい吸って帰りよ～」と言われた言葉を思い出す。

登山指数はA。今回も美味しい空気をいっぱい吸ってリフレッシュして帰ろうと楽しみにしていた。

1日目。JR茅野駅から宿のマイクロバスで唐沢鉱泉へ。休憩のあと唐沢ナメ滝まで歩いた。



急流の影響なのだろうか長い一枚岩に水が流れ続けている跡がきれいに出来ていた。澄みきった水に手を浸けるとかなり冷たかった。宿の近くまで帰ると不思議な池があった。これは鉱泉源と呼ばれる淡い翡翠いろの源泉だまりで、苔に覆われた隙間に光が射してとても美しかった。



2日目。いよいよ登山開始。標高1870mの唐沢鉱泉から、まずは今夜の宿標高2400mの黒百合ヒュッテを目指す。

登山道はシラビソの林に幹元を覆う苔に光が射してなんとも美しい。幹の根っこが作ったものだろうか沢山の小さな穴がある。まるで妖精が飛び出してきそう。そんな快適な登山道はやがて苔の付いた大きな岩だらけに変わっていった。岩の

上を歩くのが苦手な私は一步一步確かめながら歩く。いつしか周りの景色を見る余裕さえなくなってきた。行けども行けども安心して歩ける道に出合わない。涼しいはずなのに汗が止めどもなく流れる。もう限界と思う頃に休憩をとってもらえてまた元気が出て歩ける。一歩足を出せば一歩近づくを繰り返し心で唱えて自分を励ます。

出発をしておよそ4時間、黒百合ヒュッテに到着した。ここで東天狗岳へ登るための準備、登山に必要な物だけをリュックに詰め替えていざ出発。

・・・また岩だらけの登山道ではありませんか。ここからは一面ハイマツが生えていて明るい。ハイマツの間から雷鳥が顔を出さないかなあと密かに期待したがとうとう現れなかった。これまでに増して大きな岩！岩！岩！できるだけ岩と岩の間に足を置くようにして歩いた。一



帯は天狗の奥庭といわれるエリアで青空にハイマツの緑が映えていた。ここまでくれば山頂が見えるので、もうすぐ到着。かと思いきや目的地はまだまだ遠い。稜線に出れば少しは楽になるかと期待を試みたが相変わらず優しい登山道は現れなかった。そうこうするうち歩き始めておよそ2時間30分、やっと東天狗岳2640mの山頂に立つことができた。好天に恵まれた山頂からの眺めは最高で、赤

岳、横岳、硫黄岳など美しい山々を堪能した。

下山は稜線を歩いた。私のイメージの稜線といえば歩き易いはずだったがこれもかけ離れた下山道だった。何とかついて歩いて15時過ぎに宿に辿りついた。夜になって雨音がしてきた。3日目。雨は夜明け前にはあがっていたようで、他の登山客が満天の星空を見られたと話されていた。私も見たかったな。

6時30分ごろに出発。にゅうを経由して、白駒の池を通過して最終地、麦草ヒュッテバス停を目指す。たまに土の上を歩ける場面もあったが、相変わらず岩の道を行く。昨夜の雨でぬかるんでいる所も多く慎重に慎重に歩いた。視界が開けていて雲海を見られたし、沢山の素晴らしい雄大な景色を見ることができた。

私には気の抜けない山行で、両足には6個の奮闘の跡がある厳しい山行でしたが、美味しい八ヶ岳の空気を身体いっぱい吸ってリフレッシュできました。苦しかったからこそ味わえる思い出深い山行をさせて頂き有難うございました。

リーダーのお気遣いに感謝の気持ちで一杯です。ご一緒の皆様にも感謝感謝の夏山でした。



■六甲・荒地山(549m)

●日 程：9月13日(土)

●参 加 者：A班 L安田 SL森本 臼井 大谷 乙坂 北川 島谷

B班 L中村 SL藤本 池田 石堂 亀島 田坂 西川 古澤

●行動記録：芦屋川駅 8:55 発～城山(10:03 着)10:10 発～荒地山(12:20 着)12:40 発～
風吹き岩(13:25 着)13:36 発～岡本駅(15:00 着)

◆『点検と三点確保と命がけの登山』

北川

命がけと言えば大げさと思われるかも知れませんが、改めて下山してみると私にとっては命がけとも言える登山で、多くの学びもありました。

登山口から数分後、Tさんが「わぁー!!」と言ったので見てみると、靴のソールがパカッと剥がれてしまったのです。すかさず数人が応急処置に集まり、持参していた結束バンド・ひも・ビニールテープ・カッターなどで工夫しながら何とかソールを固定し歩ける状態になりました。何気なく履いた靴が劣化している事もあるという事、車や自転車の運行前点検のように登山靴の事前点検の大切さを改めて認識しました。



荒地山の山道は岩が続くと思えば、赤土になったり落葉が多くなったり水が流れる場所もあったりで様々。気温は 30℃を超えていましたが、時折吹く風に後押しされ順調に上がっていたらジャーン！目の前に立ちのぼる大きな断崖絶壁（ちょっと大げさか？）の岩！まさにこれが岩梯子かー！お恥ずかしい話、座学や勉強会で話を集中して聞いていなかったのだと思うのですが、三点確保の意味を全く理解しておらず、楽そうな迂回ルートに行こうと思ってましたが、思い切ってチャレンジすることになりました。最初に手本を示していただいた後には続き、安田さんや島谷さんが「三点確保ねー」「絶対三つのうち一つでも離したらあかんよー、離したら落ちるよー」と上から下からの適切なアドバイスを受け三点をイメージしながら何とか梯子を登ることができました。

風吹岩では見晴らしの良い素晴らしい景色を満喫して出発直後、また Tさんが「わぁー!!」っと。進行方向の山道にイノシシが！土を掘り掘りして食事中だったのかそこから動かず、Mさんが「こらーっ!!」と数回叫ぶと逃げて行ったので一安心。もしイノシシに逆ギレされてこちらにすごい勢いで走ってきて命落としていたら、次の日の朝刊に載ってかもしれません（汗）。六甲山は迷いやすいと何度も話が出たように、進行方向を迷う箇所が数回ありましたがリーダーの安田さん始め皆さまの協力のおかげで全員無事に下山することができました。



★「六甲・荒地山」リーダーから一言

安田

この度の荒地山山行は初めから心配でした。新人さんが大勢参加されているけれども、岩場は大丈夫かなって。ところがどっこい皆さん登る気満々です。またそれが上手に登っている。感心しました。(B班リーダーと他1名迂回ルートへ行きましたが、そこも大きな岩場で大変だったらしい)

登山スタートで、まず初めに私の靴が壊れてガムテープでぐるぐる巻き。急登の岩場で新人が足を攣り、しばらく停滞。それから下山途中、猪に出会う。猪の悪口をブツブツ言っていたら下山道を間違えう。色々ありましたが、本当に楽しい登山でした。



■京見山(215.7m)

- 日 程：9月23日(火・祝)
- 参加者：L 中村 SL 上田 池田 一瀬 内海 尾越 乙坂 兼本 高島 田坂 西川 藤原(千) 松尾 三木(知) 宮川 山下(永)
- 行動記録：京見山登山口 9:15 発～京見山山頂(10:00 着) 10:15 発～泣き坂峠 10:30 発～見晴台(11:00 着) 11:30 発～伏龍山(トンガリ山)(11:50 着) 12:00 発～見晴台 12:15 発～四つ塚古墳 12:20 発～泣き坂峠 12:35 発～京見山山頂(13:00 着)～ 13:15 発～七つ岩 13:30 発～高射砲台跡 13:40 発～下山口(13:50 着)



◆京見山山行

山下

暑さ寒さも彼岸まで。9月23日秋分の日、秋の気配を感じながらはりま勝原駅に9時に集合。メンバーは、今年度入会した3名を含めた16名。軽く自己紹介したあと、ストレッチをして京見山を目指して出発。出発後、まもなく鹿を発見。人を恐れることなく黙々と草を食べていました。京見山は、登山道が多く、何度か道を確認しながら山頂を目指しました。低山ですが、山頂は見晴らしがよく瀬戸内が一望できます。次に見晴らし台を目指しました。こちらでは、瀬戸内を眺めながら昼食を兼ねた昼休憩をしました。それからアップダウンを繰り返しながら伏龍山へ。地元では、通称トンガリ山です。その後、中村リーダーの案内で四塚古墳や七つ岩、高射砲台跡等歴史遺産の解説にふれながら、山中をめぐりました。



予定通り、午後2時に下山してはりま勝原駅に戻りました。曇り空のもと湿気が高かったせいか、汗びっしょりでした。

私は、京見山ふもとに住んでいて、ショートコースでは何度か登ったことがありますが、今回のよ

うにじっくりと巡ることは初めてだったので、改めて魅力的な山だったのだと新鮮な思いになりました。ありがとうございました。まだまだ初心者、これから少しずつ経験を積みたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

■北八ヶ岳(山城研“おいらくの山”企画)

●日 程：9月25日(木)～27日(土)

●参加者：L佐々木 SL砂川(延) 泉 大谷 瀧原 田羅間 矢根 山本(正)

●行動記録：

(25日)：姫路8:11発—名古屋塩尻経由—茅野(12:34着)—送迎バス—親湯温泉

(26日)：親湯10:00発—ロープウェー山頂駅11:30発～北横ヒュッテ(12:45着)12:50発～七ツ池(12:55着)13:05発～北横岳(13:30着)13:40発～縞枯山荘(15:35着)

(27日)：縞枯山荘6:20発～縞枯山(7:10着)7:15発～展望台(7:40着)7:45発～茶臼山(8:40着)9:00発～大石峠(10:10)～麦草峠(10:30着)11:15発—茅野

◆八ヶ岳北部の北横岳・縞枯山・茶臼山を訪れて

泉

久しぶりの夏山に参加できて嬉しかった楽しかった(^o^)行くまでの不安が吹っ飛びました。本当に楽しかった。朝7時に家を出てから電車バスを乗り継ぎ8時間かけて一泊目の宿に到着。名古屋から塩尻までの特急しなのが長時間！揺れる！酔った!!帰りも酔った～蓼科親湯温泉はまるで図書館のようで3万冊の書物がずらりと整頓され文豪たちの資料の展示もあり、明治大正昭和時代にタイムスリップしたかと錯覚しそうなレトロな宿でした。食事は夕朝ともお洒落な料理で優雅な時間でした。

2日目の朝、出発は路線バスの時刻に合わせ10時出発。宿の車でバス停まで送ってもらい、



アルピコバスでロープウェー下乗り口へ移動。売店でお目当てのコケモモパンを昼レーション用に買い求め7分間の空中の時間、景色に少し秋を感じた。降り口の建物を出てストレッチをして出発、北横岳の分岐に着き山頂まで90分の標識に往復3時間かかるかも？と思いながらの出発。足元は大小の石がゴロゴロで歩きにくい事！四苦八苦しながら北横ヒュッテに到着そこのベンチにザックを置かせてもらい脇道に入り七ツ池を見に行った。水面

は少し波があったがスマホの写真は森の木々と青い空が逆さに映り綺麗に撮れた。ヒュッテに戻り、ザックを背負い北横岳を目指した。南峰に到着、それぞれ記念写真を取り下山時間を考えて北峰へは行かず下山、ヒュッテまで下り昼レーションのコケモモパンでエネルギーをチャージして来た道を分岐まで下山、皆転ばないように慎重にゆっくり下って行きました。分岐に着いたのが15時を過ぎていたので坪庭散策は眺めるだけにし、縞枯山荘へ向け急いだ。





縞枯れとはシラビソやコメツカの針葉樹が立ち枯れて帯状の模様を作り出す(縞枯れ現象)がこの山の名前の由来です。歩いていると枯れた木の横から若木が育っていて世代交代が成されていて安心した。予定時刻までに山荘に着きストレッチをして中へ、山荘のご夫婦が親切に迎えて下さり 3 部屋に分かれ荷を下ろした。明るいうちに離れた場所にあるバイオトイレの確認を済ませた。17 時～20 時までの通電で充電ができ 17 時半からの夕食は手作りの美味しい食事で、食後の食器は重ねずそのままにひと説明があり食器の底が汚れると洗うのに困るんだな～と勝手に思った。ペットボトルに飲料水を一人 1ℓ無料でもらえて助かった。

3 日目、5:30 の朝食前に全員会議！行程の確認。麦草ヒュッテのバス 12:40 発を逃すと自宅まで帰り着けない可能性があり、縞枯山・茶臼山に登らず下の道を麦草まで歩くか？どうかの相談だ、会議の結果できるだけ早く出発し頑張って登ろう！と決定。みんなの気合が入った瞬間だった。食後ストレッチをして予定より 10 分早く出発し、朝もやのなか濡れた木道を滑らないように注意して進んだ。雨池峠を経て縞枯山へ、予定より 10 分早く到着。展望台への脇道を行くと大きな岩が目の前に、足の置き場を考えながら慎重に岩登り若い Y 氏は展望台の上まで行かれましたが残りの 7 名は手前の眺めの良い所で下に広がる幻想的な雲海と山々に満足した。再び慎重に岩を渡り山道に戻り次の茶臼山に向け出発、この日は土曜で行き交う人も多く早い人に道を譲りながら我々はゆっくり怪我をしないように声を掛け合い進んだ。茶臼山への登りは急所もあったが何とか登り切り展望台への脇道に入った。少し登ると広く開けた展望台で良かった。まだ残る雲海と向こうには北アルプスの槍ヶ岳が見えた、南八ヶ岳・天狗岳、南アルプスの山々が広がり壮大でした。昨日登った北横岳や縞枯山も見えた。ゆっくり時間を取り写真を撮ったりし、山々の景色を目に焼き付けた。後は下り疲れた足に要注意だ。石がゴロゴロだったが晴天が続いたので岩が乾いていたからか順調に進み、大石峠・麦草峠を経て麦草ヒュッテに 1 時間早く到着(^o^)湧き水で淹れた美味しいコーヒーとかぼちゃプリンをゆっくり味わい幸せ～～アルピコバスも 1 本早い 11:10 発に乗車、当然茅野駅でもゆっくり入浴・昼食・買い物が楽しめ予定通り電車に乗り帰宅できました。本当に良かった！楽しい夏山でした。皆さんありがとうございました。



■妙高山・火打山

●日 程：9月26日(金)～28日(日)

●参加者：L 島谷 SL 安田 白井 乙坂 笹木 徳本 春本 松田 村上

●行動記録：

(26日)：姫路駅 7:26 発—名古屋—長野—妙高高原—関山駅(13:09 着)—燕温泉(14:23 着)

(27日)：燕温泉(4:40 発)～(北池地獄沿ルート)北地獄谷分岐 7:35 発～天狗堂(8:50 着)

9:00 発～妙高山南峰(11:35 着)～北峰 12:30 発～長助池分岐(14:05 着)14:20 発

～黒沢池ヒュッテ(16:15 着)

(28日): 黒沢池ヒュッテ 4:50 発～高谷池ヒュッテ(6:20 着)6:45 発～天狗の庭 7:05 発
～火打山山頂(8:40 着)9:00 発～天狗の庭 10:00 発～高谷池ヒュッテ(10:20 着)
10:35 発～黒沢橋(13:10 着)～笹ヶ峰登山口(14:00 着)ータクシー14:30 発
ー妙高高原駅(15:05 着)16:01 発ー上越妙高ー敦賀ー新大阪ー姫路駅(22:24 着)

◆妙高山・火打山登れたよ！

白井

亡き父が、よくスキーに訪れていた妙高山。また、時々読み返している湊かなえさんの『山女日記』にも登場し「妙高山」と「火打山」の縦走は、それほど厳しい行程ではないうえに、一度で百名山を二つ制覇できるおすすめのコース（山行とは逆の笹ヶ峰から登る）とあり、昨年の山行案内で見つけた時から登って見たかったが、天気が悪く中止に。一年ぶりのリベンジ!! 天気は大丈夫そう。一日目は移動と前泊。硫黄の匂い漂う、秘湯の温泉宿。晩御飯が豪華すぎて観光気分…いえいえ、山行です。



修復工事の為、登山道に少し変更あり、翌朝ヘッドライトの光を頼りに少し早めに出発。しばらくして雨が降り出す。立ったまま合羽とザックカバーを付けて進む。暗い中このまま雨がひどくなれば撤退!! どうなるのかと内心ドキドキだったが幸い、夜が明け雨も止みホッとする。ホッとしたのもつかの間、道が細くなっていたり、妙高山の外輪山の登り「胸突き八丁」木々の枝や根っこ、岩をつかみ手つき足つき、野猿になった気分が無心に登る。嫌いじゃない道だが、ぬかるみには気をつけないと……。六合目の天狗堂。祠の前のお地蔵さん?の表情が優しく見えた。しばらくのんびりした尾根歩きが続き光善寺池という池塘や風穴が出てくる。そして、難関の鎖場が! 岩に階段状のくぼ

みがあり、鎖やロープも設置されているので、手元・足元だけ見ていたら高度感からくる怖さは回避できた。ここをクリアでき、少し成長したなと思ったものの、山頂へは岩場が続く。

まあまあ小高い岩山を登った先に妙高山南峰山頂、登頂! 北アルプスの山並みも見え槍ヶ岳も見ることができた。巨岩の間を進み北峰山頂にも登頂! こちらには、三角点や日本百名山の標柱あり。昼食休憩をして、火打山方面へ進む。下山なのに下山じゃない。アップダウンが激しくなかなか進まない。岩の間に足を挟みそうになったり、ぬかるみに滑りそうになったり、気の抜けない道が続く。青いドーム型の山小屋が見えた時はホッとし、そして小屋の前でくつろぐ人の多さに驚く。楽しみにしていたドーム型の山小屋ではなく新館の方で宿泊する事になったが（正直、



残念だったが仕方がない) 疲れていたのか記憶のないまま寝てしまっていたが、夢に父が出てきたのは覚えている。

最終日、火打山にも登頂でき、全員無事に下山。正直、もう少しラクに登れる山かと思っていました。「山少し、なめていました」気持ちを改め、「山なめんなよ」でこれからも山登り楽しみたい。リーダーはじめ、ご一緒していただいた皆様、ありがとうございました。

くびきさんかい ◆頸城山塊 火打山

乙坂

燕温泉～妙高山～黒沢池ヒュッテまでの道のりはとても長く、大小ゴロゴロの石で慎重に足を進める必要があった為、到着時くたくたでした。黒沢池ヒュッテの建物はドーム型で珍しく、興味深かったのですが満室で私達は隣の建屋となり、中を見る事も出来ず少し残念。



標高 2000mに位置するヒュッテは、星空がとてもきれいで、晩は防寒着が必要でした。

朝5時、頼んでおいた昼食を持って出発。用意された昼食はパックの赤飯と炊き込みご飯…、何だか味気ない思いでしたが、コレが意外に平べったくザックの隙間にスルリと入り、名案だと後に気づきました。茶臼山の頂上付近で朝日を眺め、紅く染まった山、小さく見える黒沢池ヒュッテと広がる湿原は美しい眺めでした。高谷池ヒュッテに到着。登山者用にザック置き場が設置されており、ここにデポして身軽に山頂を

目指すことに。妙高戸隠連山国立公園と記されている為か、木道が設置され歩き易く、植物を踏み荒らさぬよう配慮されており、天狗の庭の水面に火打山が映り込み(影火打山という)、美しい景色が広がっていました。

火打山山頂までは、前日の行程から比べるとかなり易しく、すれ違う人から「山頂は絶景ですよ」と言う言葉に元気づけられ、山頂を目指しました。山頂は360度見渡しができ、雲をまとった北アルプスの山々が遠くに見え、東を見ると新潟の町が小さく見え、空の青さと遠くの山々が、正に絶景。

高谷池ヒュッテに戻り、デポした荷物を背負って笹ヶ峰登山口へ。すっかり忘れていましたが、ヒュッテは既に標高2114m、登山口までは3時間弱歩きました。



タクシーのおじさんから聞いた話、妙高山は噴火前3000m級の山で富士山よりも高かったかもしれない、と裾野の広さから推測されるそうです。何だか神秘的ですね。この山行に参加できたこと、リーダーの島谷さん、サブの安田さんに感謝致します。